

千葉県の事業概要

～国立国際医療研究センター国府台病院・千葉大学医学部附属病院～

【1】地域概要

- ・自治体担当轄課: 千葉県庁 健康福祉部 児童家庭課 虐待防止対策室
- ・児童数(0～18歳): 955,427人
(千葉県年齢別町丁字別人口令和4年4月1日現在)
- ・児童精神科系 医師数: 不詳
- ・児童精神科のある医療機関数・入院病床・病棟数: 不詳

【2】拠点病院・機関概要

- ・拠点病院機関名・事業実施科名: 国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科
千葉大学医学部附属病院
こどものこころ診療部・精神神経科
- ・事業開始年: 令和元年度
(令和2年より千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部・精神神経科参照)
- ・子どもの心の診療機関マップ実施: 未掲載
- ・事業協力施設(連携病院など)の数: 不詳

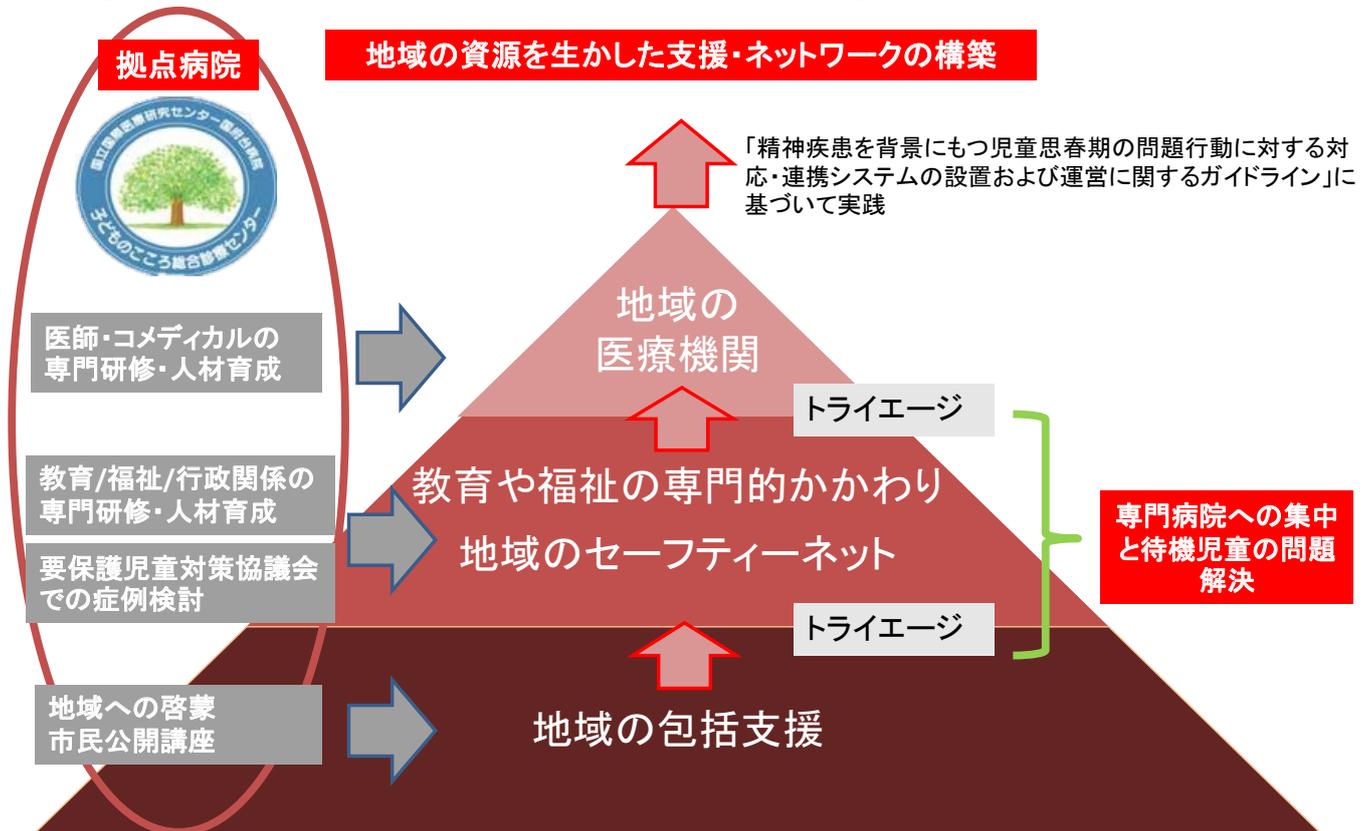
【3】事業実施への経緯

- ＜国立国際医療研究センター国府台病院 児童精神科＞
- ・昭和23年から一貫して地域医療機関等へ研修会や事例検討などの連携を病院独自で実施していた。事業があることを知り、事業参加を病院側から県へ打診され、実施に至った。
 - ・県内に子どもの心について診療できる医師が不足していたことに加えて、当院には以前から県外から児童精神科での研修を希望する医師が存在していたことから、児童相談所などとの連携を中心に検討してきた。
- ＜千葉大学医学部附属病院 こどものこころ診療部・精神神経科＞
- ・児童思春期精神医学は成人精神医学と連続性を持つため、千葉大学精神神経科・こどものこころ診療部は、ひとつのチームとして一丸となり、年齢に関わらずどのような精神疾患に対しても最善の医療を提供するように努めてきた。
 - ・年齢に関わらず「目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来はさらに良い医療が提供できるよう努力する。」を理念とし、小児科との有機的連携推進の上で本事業への応募・実施に至った。

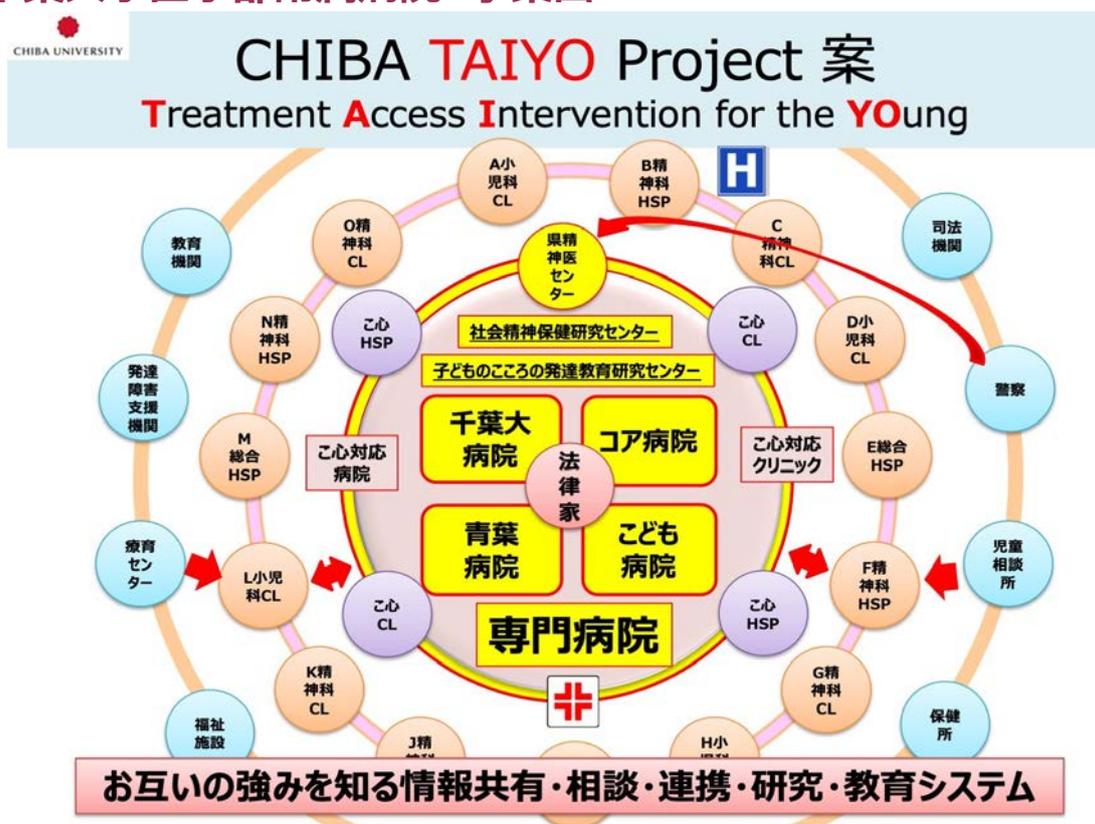


千葉県の事業概要～国立国際医療研究センター国府台病院～

【4】国立国際医療研究センター国府台病院 事業図



【4】千葉大学医学部附属病院 事業図



【5】実施事業の概要

①子どもの心の診療支援[連携]事業

＜千葉大学医学部附属病院＞

当院スタッフは成人・児童の精神科患者さんを分け隔てなく、診療されており兼業外勤先でもこどものこころの診療の実践している。(保険診療派遣日数:2021年度52日、年度144日。保険診療外の派遣による相談:2021年度316回、2020年度340回。個別対応検討ケース会議:2021年度33回、2020年度26回。日本精神神経学会の小児精神医療委員会委員、千葉県教育支援委員会副座長、千葉市いじめ防止対策委員会、FAST(family support team)として虐待対策会議を実施・連携している。

②子どもの心の診療関係者研修・育成事業

＜国立国際医療研究センター国府台病院＞

○本事業は児童精神科医の確保を主とする人材育成事業と専門機関への裨益効果をもたらす研修事業の二つをまとめた地域ネットワークの構築を目指す。

- ・千葉県内の児童福祉に関与する専門機関同士の連携を密にし、適切に受診・相談に至ることが可能になるようなネットワークを構築であり、それに属する専門職(医師・心理士・ソーシャルワーカー、教師、保育士など)を対象として、児童精神医学的知識とその実践能力の向上である。
- ・もう一つは全国的にも不足している児童精神科医の育成と同時に千葉県内の児童相談所などの専門機関における医学的な支援の拡充である。

＜千葉大学医学部附属病院＞

日本精神神経学会の小児精神医療委員会としての教育研修事業、千葉児童思春期精神医学会の共催、他職種参加による事例検討会を実施している。当院外医師への実地研修(臨床研修登録医)を4名受け入れている。専門家向けに、Youtube限定公開にこどものこころのe-learning Projectを推進している。

③普及啓発・情報提供事業

＜国立国際医療研究センター国府台病院＞

・一般市民への啓発活動としてソーシャルネットワークサービス(SNS)を利用した情報発信を続けている。

＜千葉大学医学部附属病院＞

Twitter (Smart119) のメンタルヘルス啓発漫画監修(「コロナ感染に不安になる人へ」「コロナ禍の子どものメンタルケア」「自殺を考えているひとがいたときの5ステップ」「“コロナうつ”かも? としたら」:佐々木剛 <https://smart119.biz/manga/>。全国への児童精神医学・医療に関する講演・シンポジウムを実施。(2021年度は19講演)

④その他(有事・災害対応など)

＜千葉大学医学部附属病院＞

COVID-19に関連し千葉県のメンタルヘルス対策の支援員として、県の障害福祉課と連携継続した。DPATとしての活動を継続した。

【6】特徴や特に力を入れている事業内容

＜国立国際医療研究センター国府台病院＞

・専門病棟をもつ国立高度医療研究センターとして、児童精神科医を目指す研修医や医学生の人材育成に力を入れている。特に医学生は年間で100名ほど見学を受け入れており、オンラインセミナーなども積極的に開催している。また、SNSを利用した情報発信もさまざまなプラットフォームを利用して行っている。

＜千葉大学医学部附属病院＞

・千葉県は児童精神医学を専門とする病院（千葉大学病院、国府台病院、青葉病院、県こども病院など）があるが、小児科・精神科クリニック、小児科のある総合病院、精神科のある総合病院、精神科単科病院、そして行政・福祉・教育とのネットワーク作りが今後の課題であり、児童精神医学教育システムの構築が重要である。本事業をTAIYO Projectと名付け、地域医療・教育・研究ネットワークを構築するための因子を明らかにし、児童精神科受療アクセス改善と教育効果を検証する。

【7】地域や関係機関との連携の状況

＜国立国際医療研究センター国府台病院＞

研修会の開催

・千葉県児童青年精神医学研究会 計3回
 ・千葉県内の専門職向けの研修会開催 1回
 ・児童相談所に向けた研修会開催 1回
 ・少年院の教務官等への研修会開催 1回

市川市教育委員会

・3回/年の症例スーパーバイス
 ・12回/年の嘱託医業務



教育

研修会

児童福祉

母子保健

人材育成

人材育成
 ・子どものころ専門医 専攻医2名
 ・児童精神科後期研修 6名

市川市子育て支援課
 ・年12回の嘱託医業務
 ・年6回の要保護児童対策協議会での症例検討

＜千葉大学医学部附属病院＞

【5】に加えて、2021年度実績につき下記の通り報告する。

・福祉機関への派遣による相談回数：208
 ・教育機関への派遣による相談回数：104
 ・警察・司法機関への派遣による相談回数：4

・児童精神科系 医師数：精神科専門研修プログラム指導医数として65
 ・事業協力施設として児童精神科のある医療機関数・入院病床・病棟数は、精神科専門研修プログラムの16施設

当院の児童虐待対応介入件数は300件（2021年度：特定妊婦118件、小児159件、臨床法医23件）。地域の個別支援会議を33回実施した。ハイリスク産科患者介入による児童相談所通告は71件あり、産婦人科・小児科とともに各関係機関と連携した。

なお、具体的な内容につき「CHIBA TAIYO Project -小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画 神経発達症児童への包括的治療教育プログラムガイドブック；第3版 p83-87」を参照のこと。

https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/900121131/guidebook_therapeutic_education_3ed.pdf

【8】事業による効果と思われるもの(H28-30年度からの改善点など)

＜国立国際医療研究センター国府台病院＞

・当院では令和元年からの事業であり、改善点などはまだありません。

＜千葉大学医学部附属病院＞

・令和2年度から開始中。

【9】目指す方向性について (今後の予定事業や展望、目標など)

＜国立国際医療研究センター国府台病院＞

・情報リテラシーを含めた適切な情報発信とその受容をワンセットとした情報発信をしていきたい。
 ・令和4年度からYouTube、Twitter、Instagram、TikTokを利用している。発達障害や摂食障害、子どものメンタルヘルス全般に関する心理教育の動画を公開し、YouTubeが14,795回/月、Twitterのフォロワーが1,672名、Instagramの再生時間が65時間、TikTokが18,040回/月の再生回数を獲得している（R4.2.24時点）。
 ・受診が必要であるが予約が取れない待機児童、受診の必要はない一般児童及び、その保護者に対しても、今後も同様な情報発信に努めていきたい。

＜千葉大学医学部附属病院＞

・千葉県は児童精神医学を専門とする病院（千葉大学病院、国府台病院、青葉病院、県こども病院など）があるが、小児科・精神科クリニック、小児科のある総合病院、精神科のある総合病院、精神科単科病院、そして行政・福祉・教育とのネットワーク作りが今後の課題であり、児童精神医学教育システムの構築が重要である。
 ・本事業をTAIYO Projectと名付け、地域医療・教育・研究ネットワークを構築するための因子を明らかにし、児童精神科受療アクセス改善と教育効果を検証する。
 ・今後はこどものころのe-learningを一般向けに社会実装する。また、革新的自殺研究推進プログラム(子ども・若者に対する自殺対策領域事業)との連携、児童精神疾患の病態解明、評価法・精神療法の開発のために精神疾患レジストリ構築の連携・推進を進める。